Management Club Report

Jan.2015/Vol.145

Monthly Opinion ≪今年のテーマは“生かす！”≫

2015 年という新しい年を迎えました。今年は戦後 70 年といわれています。終戦からの 70 年、10 年刻みでの事件や世相を調べてみました。1955 年は「もはや“戦後”ではない」と言われました。1965 年は前年の東京オリンピックの成功から 5 年後の大阪万博に向けて一気に高度経済成長に向かい始めます。読売ジャイアンツの V9 がスタートした年でもありました。1975 年は 15 年間続いたベトナム戦争が終結。国内では 2 年前に起きた第一次オイルショックの影響で、日本熱学工業、三省堂など有名企業の倒産が相次ぎました。1985 年はプラザ合意によってドル安円高基調に誘導されました。欧米に追い付け追い越せを目指した日本の経済力がアメリカの対日貿易赤字を招いた結果ですが、日本企業の米国資産買い漁りなどの投機熱や海外旅行ブームなどその後のバブル経済の発火点となりました。また、長らく国営であった電電公社、専売公社、国鉄の民営化が本格化し始め、国外では 40 年ほど続いた米ソ冷戦が収束に向かう機運が高まり始めた頃でもあり、1980 年半ばという時代は大きな時代の転換点というべき重大な意味を持っていたといえます。1995 年はバブル崩壊による後始末が進まず、一世を風靡した“住専”の不良債権が 8 兆 4000 億円にも上ったことが発表されるなどどん詰まりの社会経済情勢が広がる一方、阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件まで発生、社会から安心感が失われていった年でした。2005 年は郵政選挙、ライブドア事件、福知山線脱線事故などを思い出すことができますが、世の中はバブル崩壊後遺症から抜け出せず、依然として地価下落が続くデフレ経済で、『失われた 10 年』が『失われた 15 年』となっていたのです。

1965 年以降の出来事については、私も記憶に残っていますし、その渦中を生きてきました。歯科医院の現役経営者として一線で働いている先生方は、ほとんどバブル崩壊後の大変な時期に開業したはずです。経済をいかに立て直すのか、少子高齢社会が迫る中で社会保障費をどうするのか、いまだ解決を見ない困難な問題に国全体が必死になっていた時代です。“良き時代”と同じ様にいかないのは当たり前でした。それでも歯科医師として生きなければならない、自分をどう生かすのか、スタッフをどう生かすのか、真剣に取り組んできたはずです。それは時代と状況こそ違え、70 年前にどうやって自分たちが生きて行くのかを考え、必死になって汗を流した私たちの父母、祖父母たちと同じです。もちろん苦労の質も量も格段に違うことは明らかです。しかし「自分をどう生かすか」という思いには通底するものがあるでしょう。

今年のテーマは、この戦後 70 年を迎えた新しい年に向かって『生かす！』ことを考えて行きたいと思います。自分の力を生かすにはどうするか。人を生かすために自分は何をすべきか。1 年をかけてじっくり考えていきたいと思います。